



大泉小だより

令和6年4月30日
練馬区立大泉小学校

ノミの話

校長 小高敏男

先月の朝会で子供たちに「ノミ」の話をしました。「ノミ」の生態に例えて、成長するためには目標に向かって努力し続けることが必要であるという話です。

「ノミ」は、ジャンプ力がすごいというイメージを誰もがもっていると思います。体長1~9mmですが、高さでは体長の60倍、距離では体長の100倍もの跳躍力をもっています。しかし、そんな「ノミ」でも、高さや広さが制限された箱の中で長い間生活すると、その箱の高さまでしか跳べなくなってしまうそうです。このような例は、生き物の世界では多く見ることができます。タテハチョウやヒョウモンチョウというチョウの仲間の体を見ると、6本足であるはずのチョウの足が4本にしか見えません。よく観察すると、前足が小さくなって使われなくなっていることが観察できます。これは、タテハチョウやヒョウモンチョウというチョウの仲間が、飛ぶ力が強く、足を使うことが少なく退化してしまったと考えられます。必要であれば努力し伸びるけれど、努力しなければ人も成長どころか退化してしまうことを感じるができるでしょう。大泉小の子供たちは、進学・進級し新たな気持ちで新年度の目標をもって、日々頑張っています。1か月が過ぎ、新しいクラスにも慣れてきたところですが、慣れてきたからこそもう一度しっかりと目標を設定し、日々努力し一步一步成長してほしいという話をしました。

ノミの話の教訓にして子供たちの教育活動に生かすならば、ノミの跳躍力が退化した原因である箱が、子供たちにとっては何かを考えなければなりません。それは、やはり環境であると考えます。一言で環境といっても、自然環境、衛生的環境、言語環境、人的環境、学習環境など様々です。どれも大切なのですが、人の場合は、様々な環境が複雑に関係し合いながら生活や成長に影響を与えます。様々な環境の中でも学校では、特に次の二つを大切にしていきます。一つめは、学校は、集団生活であるので、安心できる人間関係が築ける環境です。安心できる環境であれば、子供たちは、馬鹿にされず、失敗を恐れずに伸び伸びと活動することができ、成長につながります。二つめは、学校は、学習活動が中心であるので、学ぶ楽しさを味わって主体的に挑戦し続けられる学習環境であることです。子供たちは楽しいことは大好きです。学ぶことが楽しければ、意欲が高まり挑戦する力となります。学ぶ楽しさを味わって取り組んだ結果として伸びを実感できれば、次の目標や更なる意欲につながって継続して挑戦し続ける子供たちとなります。この二つの環境が充実していれば、伸び伸びと夢中になって様々なことに挑戦し続ける子供たちの姿が見られると考えます。

教職員一同、このような子供たちの姿を目指して、全力で取り組んでまいります。